

小学生の放課後の生活

○表 真美 神生千暁 (京都女大)

目的 文部省が先般発表した新学習指導要領では学習内容が削減され、「ゆとり」が主眼の1つとされている。こういった改革の背景には、多忙な生活による子どものストレスが原因と考えられる数々の問題が存在する。そこで本研究では、子どもたちの放課後および休日の生活の実態を明らかにし、健康状態との関連を分析することを目的とする。

方法 平成10年6月5日より7月16日に、京都市の私立小学校1校および神戸市の農業地域、商業地域、住宅地域に位置する公立小学校4校、計5校における、3、4、5、6年生852名を対象として、集合法による質問紙調査を実施した。有効回収率は92.6%であり、789名を分析対象とした。調査内容は、学習塾・習い事に関する項目、遊びに関する項目、家族コミュニケーションに関する項目、健康状態に関する項目の4点である。

結果 得られた知見をまとめると以下の通りである。

- 1) 全体の46.5%の子どもが学習塾に通い、習い事ではスポーツ、習字、音楽の順で高率であった。学習塾・習い事に通っていない子どもは68名で1割に満たなかった。
- 2) 「ほとんど毎日遊ぶ」子どもが最も多かったが26.5%にすぎず、「ほとんど遊ばない」子どもも24.2%を占めた。「昨日の遊び」の場所は「家の中」の割合が高く、遊びの内容で最も多かったのは「テレビゲーム」の114名であった。
- 3) 家族との会話については62%が「よくする」と回答し、また休日に家族とでかける子どもも多かった。
- 4) 学習塾や習い事に通う頻度の高い子どもは「朝起きるのがつらい」「いそがしい」と回答する割合が高く、遊ぶ頻度の低い子ども、家族とのコミュニケーションが少ない子どもは健康状態が悪い傾向にあった。